



### ～代表的な水稻の病害虫～

#### ・いもち病

前年はいもち病が大分県全土で発生しました。  
圃場を確認し、葉いもちが多い場合は早めに防除しましょう。  
また、穂いもち発生が予想される場合は、  
「出穂2週間前の粒剤施用と穂揃期の液剤か粉剤の散布」  
もしくは「穂ばらみ期と穂揃期の液剤、粉剤による2回散布」  
を行いましょう。



【葉いもち】

#### ・カメムシ

カメムシは斑点米の原因になります。出穂始め～穂揃い期  
までの草刈りは、水田の飛び込みを招くので控えましょう。



【斑点米】

#### ・トビイロウンカ

九州各県でトビイロウンカの飛来が確認されています。  
トビイロウンカは増殖する前に防除することが重要です！  
発生状況を確認し、出穂期前後の基幹防除は必ず行いましょう。



【トビイロウンカ】

#### 【薬剤例】

薬剤名	対象	使用量 (10a)	使用時期	使用回数
ブレードスタークルゾル	いもち病 ウンカ類 カメムシ類	60～150L (稀釈1,000倍)	収穫7日前まで	2回以内
トライスタークル粉剤DL		3～4kg	収穫14日前まで	2回以内
ゴウケツモンスター粒剤		3kg	出穂5日前まで 但し、 収穫45日前まで	1回

#### 【病害虫ごとの防除適期】

生育ステージ		出穂 週間前 2 ～ 3	穂ばらみ期	出穂は じめ ←	一部が 出穂 5～7日	半分が 出穂 →	穂揃い期 8 ～ 9割出穂	穂揃い期以降
病害虫	防除体系							
いもち病	1回目：粒剤 2回目：液剤または粉剤	○ (粒剤)					○	
	液剤または粉剤		○				○	
カメムシ類	液剤または粉剤						○	発生が目立つ場 合は追加防除
	粒剤						○	(穂揃い期7～10日後まで)
	畦畔の草刈り	○		※カメムシがほ場に侵入 するため草刈りしない				○
ウンカ類	基幹防除		○					○ (随時)

